

学生時代の思い出

昭和56年卒 神戸市立塩屋北小学校教諭 須加田 由雄

高校卒業後は、半年間大阪の大学に自宅から片道約2時間かけて通学していました。家が裕福ではなかったため、私学の大学で下宿までする余裕がありませんでした。工学部に入学したのですが、授業についていくことができなかつたことと、毎日2時間の通学はきつかったので途中下車して、パチンコやマージャンをするという生活が続くようになりました。そして、半年で大学をやめて、受験をし直す決心をしました。

翌年の春に国立の香川大学に合格したということで、今度は両親も喜んで下宿させてくれました。四国に渡り下宿を探しに行ったときは、これからの生活にワクワクしていました。その後の4年間は想像以上に楽しい大学生活を送ることができました。

ただ、工学部で懲りたはずなのに、入ったところが物理学研究室でした。やはり授業についていけませんでした。今度は通学に時間がかからないため、クラブ活動に精を出すことができました。硬式テニス部に入ったのですが、九州地方、中国地方、四国など県外から来て下宿している人が多く、いろいろな方言が混ざってしまいました。また、男女が同じコートで練習していたため、仕送りのお金がなくなってくると、先輩や同僚・後輩の女の子の下宿を友だちと回り、毎晩のようにご飯を食べさせてもらいました。親元を離れて、いろいろな地方の人たちと4年間過ごせたことは、今思えばすごい財産になったような気がします。

今回このような執筆の機会を与えてくださったおかげで、またあの頃のことを思い出ことができました。本当にありがとうございました。自分にとって、香川大学教育学部に入学できたことは、本当に幸運でした。その後、神戸に戻り、教員として30年も働くことができているのは、そこでの4年間があったからだと思います。もし、タイムマシンで昔に戻れるとしたら、間違いなく香川大学にいた年代をセットするでしょう。